

平成17年度 特色ある大学教育支援プログラム 特色GP学生ワークショップを開催

へき地教育実習の体験を交流する特色GP学生ワークショップ「小さな学校…大きな感動 ―へき地教育実習での体験と学び―」を本学教育改革室、へき地教育プロジェクト委員会の主催で3月6日（月）、岩見沢校大会議室において開催しました。

これは、文部科学省の「平成17年度 特色ある大学教育支援プログラム」に選定された「へき地・小規模校教育実践プログラムの開発―地域と未来を開く教師教育―」事業の一環で、へき地教育実習を体験した学生の発表や、受け入れ校、教育委員会の話を通して、へき地教育実習を学生たちに紹介し、その意義を考えることを目的としています。

午前の部では、6人の実習生（釧路校3年生の早弓圭子さん・加賀小夜子さん、札幌校4年生の後藤瑞朋さん、岩見沢校2年生の初山修斗さん・峯田彩郁さん・渡邊勝之さん）が、映像資料などを使いながら熱心に発表しました。実習日程、学校の様子、子どもたち・先生方の様子、教壇実習の経験、そして地域の人たちとの交流などをわかりやすく説明し、実習を通して感じたことや見えてきた課題を明らかにしました。6人とも「受講して良かった」、「子どもたち一人ひとりと丁寧に関わることができた」という思いを持っていました。

午後の部は、教育実習の受け入れ側である歌登町教育委員会社会教育主事の渡部恒久氏と、厚真町立軽舞小学校校長の荒木玲子氏が、それぞれの立場からお話をされました。荒木校長は、教育実習を受け入れた理由として「人と触れ合う機会が少ない田舎の子どもたちに、出会いと別れという感動の場を与えたい」という思いがあった。また、先生たちにも、学生を指導するなかで自分たちの資質を向上させてほしいという気持ちがあった」と、へき地教育実習が受け入れ校にとっても意義深いことを報告されました。

ディスカッションでは会場からもたくさんの質問や意見が出されました。1年次の学生からは「へき地教育実習の様子がよくわかった」、「来年は是非へき地教育実習に行きたい」と意欲的な意見がありました。現職の先生からは本実習前の2年生が受講する意義について意見交換があり、今後の課題などを再確認し、盛会のうちに幕を閉じました。



(へき地教育研究センター)